

# 耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-751-1955

kouhei@oh-kouhei.org

立春を過ぎましたが、まだまだ寒い日もあります。くれぐれもご自愛ください。

## 会社は何のため？

先月、ホリエモンことライブドアの堀江社長が逮捕されて連日新聞やテレビを賑わしました。今回の事件、私たちにいろいろなことを問題提起しています。

たとえば、「時価総額経営」という考え方。「時価総額」とは、株のその時の値段で評価した合計金額のことです。三百円で売買されている株を一万株発行している企業の「時価総額」は、三百円×一万株＝三百万円ということになります。ホリエモンは、この「時価総額」をドンドン膨らませて、それを担保にしてまたお金を借りて、ニッポン放送などの多くの企業の買収を仕掛けていました。

資本金六百万円で開業したライブドアは、この方法で、

わずか数年で一兆円近い「時価総額」となりました。スゴイですね。

しかし本来、株価が高くなる理由とは何でしょうか。その会社の製品がよく売れたり、決算が好調だったり、つまり、経営努力や業績好転の「結果」、言わば、投資家からの「ご褒美」として高くなるものです。

今回の事件、その「結果」を「手段」と考えたために「時価総額が大きくなればそれでいい」という発想につながり、ホリエモンはどうとう偽計取引＝詐欺、すなわち「時価総額を大きくするためには何でもする」という方向に走ってしまったわけですね。

会社は何のために経営しているのでしょうか。「そりゃ、利益をあげるために決まってるがや」との声が聞こえてきそうですね。まさにその通りですが、「どのような経営を行って」その利益をあげるか、そこまでを含んだ内容が、その企業にとっての経営の「目的」と言えます。

法律に違反して経営を行うことは論外ですが、違法ではないなくても、やっつけはいけないうこともあります。違法であれば、合法であれ、「手段を選ばず」に時価総額を高める」という経営は、その類(たぐい)に含まれます。

「勝ち組」、「上流」、「セレブ」といった言葉がマスコミで喧伝されていますが、いづれも「結果」だけを指す言葉です。「どのような」いう「過程」、「手段」も大切ですね。「倫理観」や「価値観」を問いかけることになりました。ホリエモンこと堀江社長、人騒がせな御仁ですが、私たちに多くのことを考えさせてくれています。この際、僕もジックリ考えてみたいと思います。



# 覚王山ゾウゾウチョコ

(タイトル文字は書家・山内美風さん<TEL:782-1356>の作品)

—— 覚王山近辺の名店を続々紹介します! ——  
<今回は、「大門屋硝子店」さんです>

今回ご紹介するのは、「**大門屋硝子店**」さんです。  
大門屋硝子店さんは、覚王山西交差点の南東角にあるお店です。

大門屋の屋号は、ご主人の加藤さんのお爺さんの代からだそうですが、**今から約 80 年ほど前に現在のよう**な硝子店に定着したそうです。

大門屋硝子店さんの特徴は、**高い技術の提供に加え、卸も小売も一手に引き受けていること**。ガラス戸、網戸などの取り付け、修理はもちろん、工務店に製品を卸しているほか、店頭には、安くて質の高い額縁、鏡、ガラス製品などが並んでいて、ここで購入することもできます。

長きにわたり硝子店として歩んでこられたのは、**お客様から信頼を勝ち得ているから**にほかなりません。皆様も、ガラスに関することなら、どうぞお気軽に大門屋硝子店さんにお尋ね下さい!

大門屋硝子店：052-751-1346

